

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	ポストコロナを見据えた静岡県観光戦略の調査研究				
研究組織	代表者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	大久保 あかね
	研究分担者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	八木 健祥
		所属・職名	経営情報学部・特任教授	氏名	北上 真一
		所属・職名	経営情報学部・准教授	氏名	カクアマン・アムナ
	発表者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	大久保 あかね

講演題目	ポストコロナを見据えた静岡県観光戦略～「温泉」の重要性に注目して～
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>2020年以降、新型コロナウイルスの感染拡大により、静岡県の観光関連産業は、極めて深刻な影響を受けつつある。影響は宿泊業、レジャー産業、交通運輸業にとどまらず、広く農業や小売業（土産物品店等）や、卸売業（宿泊施設納入業者等）等、地域経済に幅広く波及しているのは周知のとおりである。ポストコロナ環境下は、たとえ感染拡大防止策を前提としても、需要が2019年の水準に戻ることは期待できず、消費者の行動形態や需要に合わせて対策を検討する必要がある。ターゲットとする顧客層を個人客中心に転換するとともに、既存の観光施設だけでなく地域の農業をはじめとする各種産業との連携を取るなど、新たなまちづくりにつながる観光施策が求められる。</p> <p>本研究の目的はコロナ禍によって変化した消費者（観光客）の旅行ニーズを調査し、それを踏まえた新たな観光戦略を検討することにある。今回は「温泉」に着目した。</p> <p>静岡県は、源泉数2,244泉（全国3位）、湧出量114,916ℓ/分（全国6位）という豊富な温泉資源を保有している。県内の源泉の約9割が分布する伊豆地域は、首都圏に近いなどの地理的優位性を背景に歴史的に温泉を活用した宿泊施設が集積し、様々な温泉観光地を形成してきた。本研究では、首都圏及び近隣県の消費者をサンプルとして、伊豆の温泉に対する旅行イメージ調査を実施した。</p> <p>調査項目には、旅行行動形態の変化、温泉旅行に対するニーズの変化、健康に対する意識・行動の変化、滞在形態の多様化、ワーケーション（テレワーク・プレジャーなどを包括する）などに対する消費者の需要などを選定した。またコロナ以前の観光行動や旅行での良い経験に対するテキスト分析や、観光行動パターン（一回当たりの宿泊日数など）から新たな行動形態への移行要因を分析し、静岡県の観光戦略の策定の方向性を検討した。</p> <p>静岡県は、2022年2月に新たな総合計画に従い「伊豆ヘルスケア温泉イノベーションプロジェクト（以下、ICOI）」の推進協議会を立ち上げた。当協議会は「温泉と食、運動等を組み合わせた伊豆に適した新しいヘルスケア産業の創出」を目的としたものであり、県民の健康増進やスポーツ医学との連携、ワーケーション等実施を検討する首都圏等の企業誘致を想定した構想である。今回の研究成果は本構想との親和性も高く、引き続き県担当部局との連携を取りつつ研究をすすめたい。</p>